

みんなの命を救う

災害と情報アクセシビリティ

C&C振興財団：監修 山田肇：編著

泉田裕彦・市川彰・小林隆・榊原直樹・関根千佳・藤方景子・遊間和子：著

ISBN：4-7571-0186-4 本体2400円＋税 A5判並 240頁

- ▼大きな災害が発生したとき、被災者に避難や支援に関する情報をどのように伝えるか。また、その災害の外側にいる人々に、どのようにして災害の状況を正確に伝えるか。これは大きな課題である。
- ▼災害が大きくなればなるほど、情報連絡のネットワークは寸断されるようになる。それが、情報の途絶に苦しむ人々を生み出していく。
- ▼1995年に兵庫県南部で大きな地震が起きた。その際、「神戸市内のある視覚障害者は、外に出るのが怖くて配給の弁当も取りに行けず、知人が安否を確かめに来るまでの四日間、家に閉じこもっていた。家具に挟まれたろうあ者は、近くを通る人の足音も聞こえず、助けを求める声も出せないため、棒をたたき続けた」という記事が、95年11月1日の読売新聞に出ていた。まさに彼らは情報の途絶に苦しんでいたのだ。
- ▼それは地震の外側にいた人々でも同様だ。東京にいて、神戸に住む親族の無事を心配し続けた人々は、どれほどいたのだろうか。災害時にも、スムーズに情報を流通させ、情報の途絶に苦しむ人々を救うために、われわれは何を考えたらよいのだろうか。
- ▼阪神大震災や中越地震、福井の豪雨、インド洋・スマトラ島沖での大津波などの自然災害時の具体例から、わが国の現状と対策、そして課題を浮き彫りにします。自治体職員、NGO、NPO関係者を心に災害問題に関心をもつ読者にはご一読いただきたい書籍です。

目次

第一部 災害と情報アクセシビリティ

第二部 災害時に何が起きたか

インド洋の大津波 正しい情報を伝える難しさ ハリケーン・カトリーナ 高齢者・障害者の受けた被害 新潟県中越大地震 トップは何を考えたか 新潟県中越大地震 インターネットにおける情報発信を中心に

第三部 社会システム構築に政府・自治体はどう動いたか

NTT出版株式会社

〒153-8928 東京都目黒区下目黒1-8-1 7th floor-11F ブックセンター TEL:03-5434-1010

(受付時間 9:30~17:00[土・日・祭日を除く])

NTT出版注文書	貴店印
	ご担当者名:

条件	書籍名	定価	ISBNコード	冊数
注文	みんなの命を救う	2520円	4-7571-0186-4	

FAX 03-5434-9200
(24時間受付中)